

# 「ネパール地震災害」に対する 国際消防救助隊の派遣について（第16報・最終報）

平成27年5月9日14:30  
消 防 庁  
※下線部は前回からの変更箇所

## 1 地震の概要

- ①発生日時 平成27年4月25日（土）15時11分頃  
（現地時間4月25日11時56分頃 ※日本との時差：-3時間15分）
- ②震央地名 ガンダキ県ラムジュン郡（首都カトマंडゥから北西約80キロ）  
（北緯28.1度、東経84.6度）
- ③震源の深さ 15km
- ④地震の規模 マグニチュード7.8（米国地質調査所（USGS）の最新の発表）
- ⑤津 波 この地震による津波の心配はなし

## 2 被害状況

死者：7,759名（現地時間5月7日13:00ネパール政府発表）  
負傷者：16,432名（現地時間5月7日13:00ネパール政府発表）  
邦人被害状況：5月8日12:00（日本時間）現在、死亡1名（50代男性）、負傷者1名（50代女性）。この他に邦人及び日系企業の重大な被害等には接していない。

## 3 派遣期間及び派遣先

平成27年4月26日（日）～5月9日（土）  
ネパール連邦民主共和国

## 4 派遣隊の構成

国際緊急援助隊救助チーム 70名  
（消防17名・警察23名（救助16名、救助犬ハンドラー5名、通信隊員2名）・海上保安庁14名・外務省1名・JICA8名、医療関係者5名、構造評価専門家2名からなる混成チーム）

国際消防救助隊（IRT-JF）	17名
消防庁（国際緊急援助隊救助チーム副団長）	1名
東京消防庁	6名
さいたま市消防局	3名
浜松市消防局	3名
川越地区消防局	1名
秋田市消防本部	1名
高崎市等広域消防局	1名
富山市消防局	1名

## 5 派遣経過

26日、消防庁は、ネパール政府からの要請を受けた外務省からの派遣協議を受け、消防庁長官が国際消防救助隊の派遣を決定した。

国際緊急援助隊救助チームは、本日中にチャーター便にて成田国際空港を出発予定。

- 12:00 成田国際空港に集結
- 13:10 国際緊急援助隊結団式
- 13:50 国際消防救助隊結団式  
国際消防救助隊結団式において、高市総務大臣からのメッセージを黒川参事官が代読
- 17:52 チャーター便にてバンコクに向け出発（所要約7時間）以下、タイ時間（日本との時差 -2時間）

22:40 スワンナプーム国際空港着、バンコクにて1泊

【4月27日】

7:00 集合・打ち合わせ

10:50 スワンナプーム国際空港から、空路（TG319便）にてカトマンズに向け出発したが、カトマンズの空港の混雑のため着陸許可が下りず、燃料給油のためコルカタ（カルカッタ・インド）に着陸し、給油後再び（19:10（日本時間））カトマンズに向け出発した。

【4月28日】

1:00 コルカタを出発したTG319便は、同じ理由によりカトマンズの空港に着陸することができず、コルカタに一旦着陸（27日22:34（日本時間））。バンコクに向け出発（28日0:42（日本時間））し、スワンナプーム国際空港に到着。国際消防救助隊はバンコクにて宿泊。

10:00 スワンナプーム国際空港から、空路にてカトマンズに向け出発

以下、ネパール時間（日本との時差 -3時間15分）

11:45 カトマンズ着

14:30 調査チームを編成し、カトマンズ市内の建物崩落現場にて情報収集を実施。

15:00 カトマンズの旧王宮（ハヌマン・ドガ）周辺において救助犬・隊員による搜索活動を開始。（18:40活動終了）

18:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センター（OSOCC）との打ち合わせに参加

※OSOCC：On-Site Operations Coordination Center）。

【4月29日】

7:16 国際緊急援助隊救助チーム（第2中隊）は、カトマンズの旧王宮（ハヌマン・ドガ）周辺における搜索活動を行うために、宿泊施設を出発し、7:35搜索活動を開始。

8:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加し、旧王宮周辺に加え、バクタプール及びその北部のエリアでの活動が決定。

10:31 国際緊急援助隊救助チーム（第1中隊）はバクタプール及びその北部エリアに向け、順次宿泊施設を出発し、搜索活動を開始。

14:49 旧王宮での搜索活動中に、国籍不明の女性1名の遺体を発見

18:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加

21:00 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム全体会議

【4月30日】

7:20 前日に引き続き、旧王宮周辺での搜索活動を開始。搜索活動は、各隊員が1時間交替で順番に実施。

8:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。

10:10 国際緊急援助隊救助チーム副団長及び隊員4人のチームを編成し、バクタプル周辺において、救助犬を導入した搜索活動を実施。

15:15 ネパール軍と調整の上、旧王宮周辺での搜索活動は完了し、国際緊急援助隊救助チームの団長が警察現場責任者へ報告。

18:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。

20:30 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム指揮班ミーティング。

21:30 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

22:00 国際緊急援助隊救助チーム指揮班ミーティング再開。

隊員の健康状態については、食欲が落ちているが、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

【5月1日】

- 8:10 国際緊急援助隊救助チームの一部の隊員がサクーにて事前調査のため出発。
- 8:30 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。
- 8:58 一部の隊員がサクーに到着し、事前調査開始。
- 10:32 サクーでの事前調査を終了、9歳児が下敷きになっているとの要救助者情報を入手。一旦帰隊。
- 12:00 サクーへ国際緊急援助隊救助チームの全部隊が出動。
- 13:20 サクーでの搜索活動開始。
- 16:00 搜索活動終了。要救助者発見に至らず。
- 18:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。  
昨日まで30チーム程度の出席があったが、10チーム程度の出席に減少した。
- 20:00 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム指揮班ミーティング。
- 21:30 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

隊員の健康状態については、連日の手作業による搜索活動が続いているため、疲労の蓄積が見られるとの報告あり。

【5月2日】

- 8:30 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。  
ネパール政府内務省が5月3日12時に、各国からの救助支援を終了する声明を発出する旨の報告あり。
- 9:35 昨日に引き続き、9歳児の搜索活動のため、サクーへ国際緊急援助隊救助チームの全部隊が出動。
- 10:30 サクーで、救助犬による搜索を開始。(10:45終了)
- 10:40 ガレキの除去作業等開始。
- 12:00 他国救助チームのテクニカルサーチ実施のため、サイレントタイム実施。(12:37テクニカルサーチ終了)
- 12:47 救助犬による搜索を開始。(12:50終了)
- 13:00 ガレキの除去作業等再開。
- 16:15 ガレキの除去作業終了。要救助者発見に至らず。  
気温35度に及ぶ中、手作業によるガレキ除去であり、過酷な環境下での搜索活動となった。
- 18:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、国連現地活動調整センターとの打ち合わせに参加。  
(今回の打ち合わせが最終のものとなる。)  
国連現地活動調整センターとしては、各セクターの搜索活動を終了するという判断であったが、国際緊急援助隊救助チームの団長からは、9歳児の搜索活動を継続するとの説明があった。
- 19:30 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム幹部(指揮班、中隊長等)ミーティング。
- 21:30 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

【5月3日】

- 9 : 00 第1小隊を除く部隊は、サクーへ出発。第1小隊は休息日。  
10 : 17 サクーに到着し、搜索活動を開始しようとしたところ、付近住民より情報を入手。内容は、搜索中であった9歳児は、搜索範囲の近隣にて、当該地域の住民が遺体で発見し、警察により遺体が収容されたとのことであった。  
10 : 40 サクーでの行方不明者はこれ以上無いとのことから、サクー撤収を決定。部隊はサクーを出発し、宿泊施設到着後、終日待機となった。(11 : 25 宿泊施設到着)  
13 : 30 国際緊急援助隊救助チームの副団長等は、ゴンガブにて事前調査のため出発。(13 : 50 現場周辺到着)  
16 : 05 ゴンガブでの事前調査を終え、ネパール武装警察へ出発。  
16 : 25 ネパール武装警察到着。  
ネパール武装警察から協力が求められる搜索活動地域の情報を聴取。5月4日朝に開催されるネパール武装警察の会議の結果を待って、具体的な地域の候補があれば提示される予定。  
16 : 57 ネパール武装警察から宿泊施設に到着。  
17 : 00 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム幹部ミーティング。  
18 : 30 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

【5月4日】

- 第2小隊は休息日  
8 : 55 ネパール武装警察からの依頼に基づき、事前調査(レッキ)隊を編成し、ゴンガブ地区(ガネスタン及びヒルトン)での踏査活動のため宿泊施設を出発。  
9 : 15 ガネスタンエリアに到着。レッキ活動開始。  
9 : 45 ヒルトンエリアに到着。レッキ活動開始。  
10 : 50 宿泊施設到着  
13 : 07 第2小隊を除く部隊は、ゴンガブ地区ミトラナガール通りに向け、宿泊施設を出発(13 : 21 到着)。  
14 : 20 パスチム・ポカラ・ゲストハウスにて、テクニカルサーチを実施(16 : 45 活動終了)。  
同ゲストハウスは、5階建てのうち、1階・2階部分が座屈しており、構造評価専門家が安全確認を行いながら、3階部分の床から2階天井へ通じる穴をあけ、カメラによる要救助者の搜索を実施。要救助者の発見には至らなかった。  
17 : 27 宿泊施設到着  
17 : 30 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム幹部ミーティング。  
19 : 00 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

【5月5日】

- 第4小隊は休息日  
8 : 34 第4小隊を除く部隊は、ゴンガブ地区ミトラナガール通りの「パスチム・ポカラ・ゲストハウス」へ向け出発  
8 : 55 ドッグサーチ開始(反応なし)  
9 : 10 第3小隊→第2小隊→第1小隊の順で搜索活動開始。建物を4区画に分割し、第4区画にてダーティー・ブリーチング(穿孔活動)を開始。  
11 : 50 第4区画のダーティー・ブリーチングを終了。第3区画を開始。  
12 : 00 定時検査により、建物の傾斜角度が2度から3.5度に上昇していることを確認。安全確認と構造評価専門家による建物検査のため活動を一旦中止。  
12 : 13 建物検査を終了。活動継続可能と判断し、活動を再開。

- 12:55 「パステム・ポカラ・ゲストハウス」の全区画の搜索活動を終了。要救助者の発見はなし。(13:10活動終了)
- 13:37 宿泊施設到着。待機。
- 16:00 国際緊急援助隊救助チームの団長等は、ネパール武装警察本部へ活動結果報告
- 17:00 宿泊施設にて、国際緊急援助隊救助チーム幹部ミーティング。
- 18:00 国際緊急援助隊救助チーム全体会議。

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

- 【5月6日】 第3小隊は休息日
- 8:30 国際緊急援助隊救助チーム全体ミーティング  
昨日のネパール武装警察副長官面談時に、支援が必要なサイトは無いとの説明を受け、部隊は、余震発生や緊急要請等の対応に備え、終日待機とした。
  - 16:45 国際緊急援助隊救助チーム幹部ミーティング
  - 17:00 国際緊急援助隊救助チーム全体ミーティング
  - 18:50 国際緊急援助隊救助チーム幹部は、在ネパール小川大使へ訪問

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

- 【5月7日】
- 国際緊急援助隊救助チーム団長及び副団長4名にて、関係機関へ帰国報告を行った。
- 8:00 ネパール武装警察長官へ表敬訪問
  - 11:15 外務省局長へ帰国報告
  - 11:50 内務省局長へ帰国報告
  - 15:00 在ネパール日本大使館へ帰国報告
  - 16:30 JICAネパール事務所へ帰国報告
  - 17:30 国際緊急援助隊救助チーム全体ミーティング

隊員の健康状態については、特に目立った体調不良等はないとの報告あり。

- 【5月8日】
- 10:00 宿泊施設から空港に向け出発
  - 13:30 カトマンズ・トリブバン国際空港をTG320便にて出発
  - 18:15 (タイ時間) バンコク・スワンナブーム国際空港着

バンコクからは2便に分かれて搭乗

- 22:10 (タイ時間) バンコク・スワンナブーム国際空港をTG640便にて出発
- 6:20 (日本時間9日) 成田国際空港着

- 23:50 (タイ時間) バンコク・スワンナブーム国際空港をTG642便にて出発
- 8:10 (日本時間9日) 成田国際空港着

以下、日本時間

- 【5月9日】
- 9:30 国際緊急援助隊解団式
  - 10:00 国際消防救助隊解隊式において、高市総務大臣からのメッセージを黒川参事官が代読 (別紙)

- ※1 隊員の体調については、毎日21時からの全体ミーティングにおいて、医療班が隊員全員の体調確認を実施。  
なお、5月3日からは、隊員の疲労を考慮し、第1中隊（第1小隊と第2小隊から編成）と第2中隊（第3小隊と第4小隊から編成）のうち、3個小隊が搜索活動を実施し、1個小隊が日替わりで、休息にあたっていく体制となったとの報告あり。
- ※2 ネパール政府内務省が5月3日、各国からの救助支援を終了する声明を発出。これを受け、国際緊急援助隊救助チームの搜索活動地域の選定にあたっては、安全性が確認された地域での活動を原則とする。
- ※3 現地における各国の搜索活動範囲等を調整する国連現地活動調整センター（OSOCC）は、撤収完了。
- ※4 各国の撤収  
アメリカ：帰国済み  
ドイツ：帰国済み  
フランス：帰国済み  
中国：帰国済み  
オランダ：帰国済み  
スイス：帰国済み  
韓国：帰国済み

本報告をもって、最終報とします。

問い合わせ先 消防庁国民保護・防災部 参事官付 永作、石川、柳原 TEL 03-5253-7507（直通） FAX 03-5253-7576
---

## 国際消防救助隊解団式 総務大臣メッセージ

国際消防救助隊としてネパールにおける地震災害に派遣された、鳥枝総括官、萩森隊長以下17名の隊員の皆様、本当にご苦労さまでした。

今回の派遣では、大変厳しい環境の中での長期にわたる、皆様の献身的な活動については、ネパール国政府やネパール国民から高い評価と謝意が表明されており、日本においても連日大きく報道され、その活動ぶりを見るにつけ、私自身もたいへん心強く感じたところです。そして、国際消防救助隊が国際緊急援助隊の中核となって活動しておられることを総務大臣として誇りに思いました。

ご家族の方や派遣元の消防本部におかれても、皆様の連日のご活動を誇りに思いながらも、さぞかしご心配されたことと思います。私も、皆様が全員ご無事で帰国されたことに安堵しております。

皆様におかれましては、今回の経験をそれぞれの職場での活動に活かし、今後も人命救助という困難かつ崇高な任務に引き続き大いにご活躍いただきたいと思います。

それでは、最後になりますが、隊員の皆様、本当にお疲れ様でした。

そして、ありがとうございました。

以上